

2020年3月30日

各位

小野薬品工業株式会社

スイス Numab 社と新たな創薬提携契約およびオプション契約を締結

小野薬品工業株式会社（本社：大阪市中央区、代表取締役社長：相良暁、以下、当社）は、本日、**Numab Therapeutics AG** 社（スイス、ヴェーデンスヴィル、最高経営責任者：David Urech、以下、**Numab** 社）と、新たにがん免疫領域において多重特異性抗体を創製するための創薬提携契約およびオプション契約を締結しましたので、お知らせします。

当社は、2017年3月に **Numab** 社と創薬提携契約およびオプション契約を締結していますが、今回の契約は前回の契約とは異なる組み合わせの標的分子に対する新たな多重特異性抗体を創製することを目的とした提携を行うものです。前回の契約と同様、本契約に伴い、当社は、**Numab** 社の革新的な創薬アプローチに基づいて創製された新薬候補抗体について、全世界で独占的に開発・商業化するオプション権を獲得しました。当社は **Numab** 社に対して、契約一時金、研究および開発の進捗に応じたマイルストーン、売上高に応じたマイルストーンとして、総額で最大 2 億 6,000 万スイスフランを支払います。また、売上高に応じた一桁～二桁台のロイヤルティを支払います。

当社の常務執行役員研究本部長である滝野十一は、「当社は、前回の契約に基づいて進めている創薬プロジェクトを通じて、**Numab** 社の多重特異性抗体作製プラットフォームが優れた多重特異性を有する候補抗体を作製できるよう最適化されたものであることを確認しました。この提携から創製される多重特異性抗体ががんに苦しむ患者さんに新たな希望を与えることになることを期待しています。」と述べています。

Numab 社の最高執行責任者である Oliver Middendorp 氏は、「今回の発表は、現行の創薬提携のもとで培われた専門的技術と知識を相互に認め合えたことの証です。小野薬品が今回の創薬提携の開始を決めたことは、**Numab** 社の創薬プラットフォームが高く評価され、多重特異性抗体が小野薬品のがん領域におけるパイプライン戦略に貢献できることを示しています。また現行契約のもとで開始された **ND023** プロジェクトに加え、今回の新規プロジェクトで全く新しい作用機序に基づく新薬の創薬提携を開始できたことを非常に嬉しく思っています。」と述べています。

Numab 社について

Numab 社は、スイス、チューリッヒ近郊に拠点を置き、がん領域を重点分野とするバイオ医薬品企業です。がん免疫治療の歴史に新たな一章を加えるべく、**Numab** 社は、全く新しい治療戦略の構築を目指して、その独自の創薬プラットフォーム「**MATCH**」を駆使し、汎用性や開発可能性を考慮しつつ多重特異性抗体の新規臨床候補化合物を創製します。**Numab** 社自身も自社プロジェクトを有しており、**4-1BB**、**PD-L1**、ヒト血清アルブミンに同時に結合することにより、がん免疫活性と安全性のバランスに優れた医薬品候補化合物などを開発しています。**Numab** 社は、化合物設計の全てのステップにおいて最高の品質基準を満たすことが、病気で苦しむ患者さんに大きな恩恵をもたらすと信じています。詳細については www.numab.com をご覧ください。

＜本件に関する問い合わせ＞
小野薬品工業株式会社 広報部
TEL : 06-6263-5670
FAX : 06-6263-2950